

## 就職活動を終えて

Aさん 植物生産環境科学科（令和元年度卒）

私が就職に向けて行ったことの中で、やって良かったこと反省したことをお伝えしたいと思います。皆さんの就職活動の参考にして頂ければ幸いです。

私は、公務員志望で3年の夏休みに県庁のインターンシップに行き、そこからは説明会を経て2月から本格的に勉強を始めました。

まず、公務員試験までに行ったことですが、私は公務員講座を受けていなかったの、自分で過去問や参考書を買って、ある程度の計画を立てて勉強しました。ここでの良かったこととしては、過去公務員試験を受けた先輩方がまとめた資料を参考に出来た事です。研究室や大学では、それぞれ試験を受けた先輩の報告書や勉強に使った資料が保管されている所があるので、それを参考にすると効率よく勉強を進められると思います。また私の場合は、研究室の先輩に志望先に就職されている方がいたのでその人と連絡を取り合い、勉強の仕方や試験までにやったことを詳しく教えて貰うことが出来、これが就職活動を行う上でとても役に立ちました。試験の雰囲気や流れなど、かなり細かいところまで聞く事が出来たので、試験だけでなく面接の時も緊張しすぎることなく余裕をもって挑むことが出来ました。反省することとしては、私は計画立てて勉強するということが出来てはいたが、あまり得意ではなく、途中で挫折することが多々あったことです。就職活動の中で勉強するというのは大変きつく、特に周りの人が企業などで就職を決めていくと、焦りも生まれます。私は最終的に当初決めていた分をすべて終わらせることが出来なかったの、試験1ヶ月前くらいに絶対に覚えておくことを決めてそれだけをやっていました。加えて、私は地方上級の試験が本命でしたが、練習として全国の試験を受けました。試験の大体の流れや空気、特に時間配分の面でとても勉強になりました。

次に、試験が始まってからですが、前述したように卒業生の先輩に詳しく話を聞き、気持ちを作っておくこと、また自分の中で特に気をつけていた事としては、公務員の試験はマーク式が多く、分からない問題があっても当たる可能性があります。なので、分からないと思っても問題文を最後までしっかりと読み、選択肢を減らして少しでも解答率を上げるということが一番徹底していました。2次試験の面接は、反省点が多く特に自己分析が足りていませんでした。多くの公務員試験は筆記試験より面接の方に重きをおいています。その為、これから就職活動をする方は筆記の勉強もですが、とくに面接対策に関してハローワークや大学主催の対策講座など積極的に参加し、少なくとも1次試験の時には自己分析を終え、自己PR、志望理由、ガクチカをある程度書けるようになっておくと、その後がとても楽になると思います。

全体をまとめて私が就職活動で一番大切だと思ったのは、人との関わりです。一緒に就職活動をする同級生、先生、先輩、卒業生など多くの人を頼り、少しでも自分が納得出来る就職が出来るよう応援しています。

## 就職活動を終えて

Bさん 植物生産環境科学コース（令和元年度修了）

私が就職活動を通して、重要だと感じたことをお伝えします。一、インターンシップに参加する。二、場数を踏む。三、ポジティブに考える。以上の3つです。

初めに、インターンシップに関してです。志望業界が早くに決まっていた私は、修士1年の12月頃から複数の就職情報サイトで企業の情報収集を行っていました。2月頃から本格的に就職活動を始め、5社の1dayインターンシップに参加しました。そこで、実際の会社の雰囲気、業務の一端に触れ、社員の方々と交流することで、同じ業界の中でも会社によって大きな違いがあることが身をもって実感できました。加えて、インターンシップは本番の採用試験ほどの緊張感はありません。就活生にとっては、これを利用しない手はないと思います。宮崎に住んでいると、日程・交通の面で不便だと思いますが、可能な限り多くインターンシップに参加すべきです。

次に場数を踏む。そのままですが、非常に重要です。私も含めて、いきなり志望度の高い会社を受けて自分自身を100%表現できる人はあまりいないでしょう。また、会社（面接官）によって話しやすい、話しにくいなどの雰囲気の違いも多くありました。それに対応するには、やはり場数を踏むしかありません。数をこなせば緊張も緩和され、就職に対する自分自身の考えも当初より固まってくると思います。これには個人差が相当あると思いますが、私の場合は、5、6社目くらいにはほぼ緊張しなくなり、自分を上手く表現できるようになりました。場数は踏むべきです。

最後に最も重要なのは、ポジティブに考えることです。数か月に及ぶ就職活動期間中、少しの躓きもなく第一志望の内定を得る人はそう多くないでしょう。私も内定をもらうまで、不安や焦りを感じる瞬間が何度もありました。しかし、焦っても仕方がない、自分ではどうにもできないこともあると考えて切り替えるようにしました。ネガティブになりすぎず、前向きに考えることは重要です。とはいえ、楽観的に考えて何もしなかった訳ではありません。失敗から学び、それを次に活かすことは忘れませんでした。

最終的に、私は4社から内定を頂き、その中でも当初の志望とも合致する会社に入社することを決めました。今振り返ってみると、3月、4月の就活当初に受けた志望度が高い企業から内定を頂いていたら、この会社とは出会っていないでしょう。そう考えると、就活のつらい時期も自分には必要な時間であったのだと改めて思います。

長くなりましたが、これから就職活動を始める皆さんにはつらい時期もあると思いますが、いつか報われると信じて頑張ってください。応援しています。

## 「就職活動体験記」

Cさん 森林緑地環境科学科（令和元年度卒）

これから就職活動を迎える皆さんへ、私の就職活動による経験をお伝えしたいと思います。

はじめに、私は農業土木の公務員試験のみを受験しました。受験したのは、国家公務員一般職と県庁の上級職です。

次に、就職に当たり何を実際に私が行ったのかを話していきたいと思います。最初に行ったことは、インターンシップに参加したことです。私は3年生の夏休みに県庁の農業土木職関係の部署に1週間参加させて頂きました。ここでは、仕事内容をより詳しく知ることができ、なおかつ、実際の仕事をさせて頂きました。また、働いている方々の話も聞くことができ、勉強へのモチベーションにも繋がりました。その後はとにかく筆記試験の勉強をしました。その内容は主に国家試験の過去問を決められた時間通り行い、点数までつけ自分の実力と苦手やおさえ切れていない範囲の把握を行いました。そして、そこを教科書や農場白書、農業土木ハンドブックを利用して知識の詰め込み、詰め直しを行いました。それをひたすら繰り返しました。この方法を選んだ理由としては、県庁の筆記試験の過去問は公開されていないが国の過去問は公開されておらず、かつ、問題傾向が似ているが県庁よりも難しいため、問題慣れするという意味からも、この方法を取り組みました。最後に国家公務員は県庁よりも先に第一次試験が行われ、問題傾向も似ているため、第一志望の県庁の試験や本番の雰囲気になれることを体験する意味で受けました。面接はまず、受験する県について調べました。ホームページやインターンシップに参加したときに頂いた資料を主に利用しました。ここでは頂いた資料がとても役に立ちました。このことから、是非インターンシップには参加することをお勧めしたいと思います。

次に面接でのマナーや質疑応答の良い例と悪い例を調べ、自分の面接マナーや質疑応答方法を分析・比較し、良い例になるように改善して行きました。また、自分の応答内容を丸暗記するのではなく、フレーズとして覚え、本番では臨機応変に組み替えて返答しました。最後に国の面接で実際に面接を体験してから県を受けました。企業などで練習するのもいいと思います。

終わりに、これから就職活動を行う皆さん、あくまで私の体験は一例に過ぎませんので、自分に合ったやり方で勉強など行ってください。そして、もし私の体験のなかで“いいな”と思う所があれば、取り入れて頂ければ幸いです。皆さんの就職活動の成功を心よりお祈り申し上げます。

## 「大手企業の研究職を目指して」

Dさん 森林緑地環境科学コース（令和元年度修了）

私は業界大手の研究職でこれから働くことになりました。地方国立大学から研究職で内定をもらうことが難しいと、実際多くの先生方にも言われていましたが、多くのアドバイスをいただいて無事就職が叶うことになりました。

もし大手の研究職を目指すなら、まずは覚悟を決めることが重要だと思います。競争相手は旧帝大や有名私立大学の学生が大半を占めます。それだけでも気おくれしてしまい、自分らしさを面接で出せないこともあるかと思います。このようになることは容易に想像できるので、少なくとも他大学の名前に負けないようにするために、自分に自信を付けることが重要です。この自信は自分が成し遂げてきたことでしか身に付けられません。

第一に日々の研究活動を精一杯頑張ってください。以下に私が指導教員や学科の先生方にアドバイスをさせていただいて書き上げた方法を伝えます。

### 1. エントリーシート

嘘のない熱意を書くこと。空白を作らないこと、限られた字数の中で自分をアピールすること。研究職の場合は特に学会発表や投稿論文について詳しく記述する必要があります。またこの業績が自身の自己アピールの裏付けにもなります。これは私の経験談ですが、将来何をするか迷いがある時は、今出来ることを精一杯取り組んで、何か履歴を埋めるように活動したら履歴書が映えると思います。この一枚で実際に社員さんにお会い出来るかが懸かっています。私はエントリーシートも数人の先生に見ていただき、推敲を重ねました。

### 2. 面接

出会って3秒間的印象において重要だと聞きます。迷いのないノック、視線、挨拶をしっかりするだけで面接官に聞いてもらえる面接になるかもしれません。内容に関しては、私自身にその企業に入りたい軸がはっきりしていたので、分かりやすく伝える練習をしました。グループ面接で他人と差をつけるのは、面接終了後にドアを閉めるまで、指先まで集中して振舞うことだと思います。何より誠意を見せることが重要です。

私事ではありますが、志望した業界は2つで、かつ研究職に絞って中でも就職活動をしていました。全国各地の説明会に24社参加し、13社に書類提出、7社に書類通過、7社に一次面接通過、3社に最終面接通過・内定という結果でした。情報解禁の3月から4ヶ月取り組んでこの結果です。希望する業界は全て書類が通過し、興味がある程度の業界はあまり通過しませんでした。書類から熱意は伝わるのだと思います。就職活動が本格化する前は研究活動にしっかり取り組み、自分を磨くこと。始まってからは一つひとつに丁寧に取り組み、自分らしさを存分に出すことが良いと思います。

皆さんが希望する進路に進めることをお祈りしております。

## 就活体験記

Eさん 畜産草地科学科（令和元年度卒）

私は、畜産系の公務員試験のみを受験し、来年の4月から宮崎県庁の畜産職として働くことが決まりました。志望動機は、牧場実習や授業で得た知識を活かして宮崎の畜産について畜産振興、普及、試験研究と幅広く携わることができることに魅力を感じたからです。

公務員試験の対策についてですが、1次試験は早い時期から勉強を始めた方がいいです。私は、3年時から過去問集で教養の対策をしていました。専門試験については、3年時から週一回の公務員対策のゼミを受けたことで基礎知識を身に付けることができました。また、農学部の教務・学生支援係で過去問をもらい、解いて復習していました。

2次試験の対策は、生協の公務員講座で主に対策しました。事前準備として、自己分析や志望先の仕事研究を受験年の1月から勉強の合間にやっていました。面接の練習は、面接カードの添削や模擬面接をしてもらい、集団討論は公務員試験を受ける人と4人ほどで練習を5回やりました。集団討論はどんな感じが慣れるためにできるだけたくさん練習した方がいいです。練習した分だけ自信につながります。

公務員志望の方は、学内で行われる公務員の説明会に自分の志望する所でなくても積極的に参加してください。仕事の大まかな内容が分かり、イメージがわきやすくなります。

夏休みなどにインターンシップに参加することもいいと思います。私は、大学2年時に2週間県の畜産試験場へ、3年時に5日間畜産振興課のインターンシップに参加しました。この経験を通じて、仕事内容への理解が深まり、イメージがわきやすくなり、以前よりここで働きたいという思いが強まりました。

大学3年からできる活動としてボランティア活動やアルバイトなどの経験をしておくといいと思います。面接の時に話せる経験を一つでも多くしておくといいです。様々な経験で、たくさんの人と関わり、コミュニケーション能力の向上につながるので社会人になる前の大事な準備にもなると思います。私は、大学2年時から続けているアルバイトでの経験でチームワークの大切さを学びました。チームワークは、仕事において欠かせない重要なものなので学べて良かったです。また、市内で開催されたマラソン大会や福祉のボランティアに参加して奉仕の心を学びました。

以上が私の就活体験記です。これから就職活動を迎えるみなさん、大変だと思いますが頑張ってください。

「農研機構動物衛生研究部門への就活を終えて」

Eさん 獣医学科 (令和元年度卒)

【自分史と志望動機】

幼い頃から私は、動物が好きでした。そのため勉強では特に生物学が一番好きでした。中学に入ると勉強以外（部活動のテニス、友達との遊び、ゲーム）ばかりしていました。そのため、高校入学時の成績は惨憺たるものでした。同じ頃、地元宮崎県で口蹄疫の被害を経験しました。その時にワクチン接種牛を殺処分する光景をニュースで見て、動物の感染症を研究する研究者になりたいと思うようになりました。高校1年の後期から獣医学科合格を目指して猛勉強を始め、1年間の浪人を経て、地元の獣医学科に後期で合格することができました。

大学で学ぶ科目はどれも面白く、のめりこむように勉強しました。4年生になると獣医微生物学研究室に入室しました。入室当時の私は研究を楽観視していましたが、研究は決して楽なものではありませんでした。5年生になり、就職先を考えるため私は元から興味のある農研機構動物衛生研究部門（動衛研）へインターンシップに行きました。その時様々な学術的背景や考え方を持つ研究者に出会いました。特に研究する中で技術不足を痛感していた私は、様々な技術を持つ動衛研で働きたいと強く思うようになりました。6年生になってもその思いは変わらず、就活をした結果、動衛研に内定を頂くことができました。

【アドバイス】

まず日々の勉強（授業やテスト）を頑張ってください。普段の授業やテストを頑張っていれば専門の勉強に割く時間を減らすことができます。また面接などの対策方法は学生支援課、就活している友達、ネットから知ることができます。2つ目にインターンシップに行ってください。インターンシップに行くことで職場の雰囲気を知ることができ、面接でもアピールできます。3つ目に友達と協力してください。面接で趣味や特技、ストレス発散法を聞かれたらいつも友達とやっていることをアピールするとよいです。4つ目に第2希望、第3希望への見学やTOEIC受験は早く開始してください。自分は就活をしながらこれらを行ったため大きな負担となりました。5つ目に募集要項をよく読んでください。職場がどのような人材を欲しがっているかを知り、自分が当てはまる点を積極的にアピールして下さい。最後に面接は元気よく受け答えして下さい。特に農水の試験は最後の面接が最も重要と噂されています。以上です。頑張ってください。